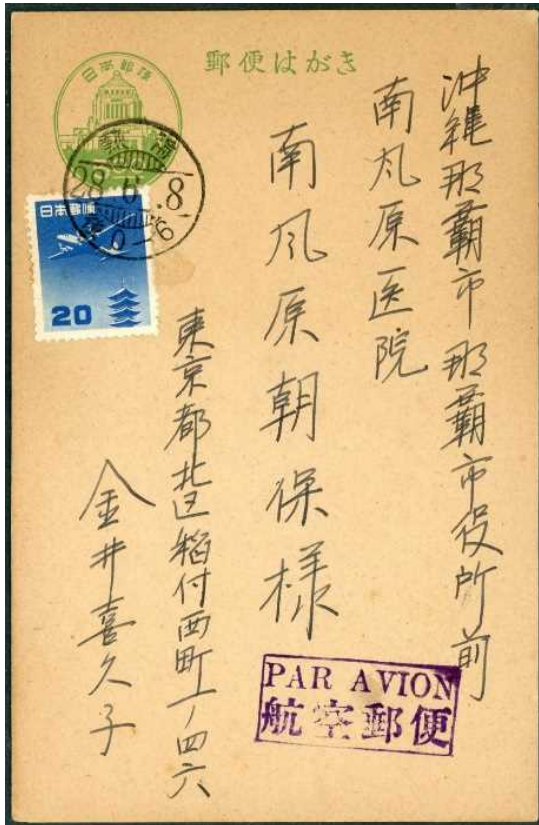


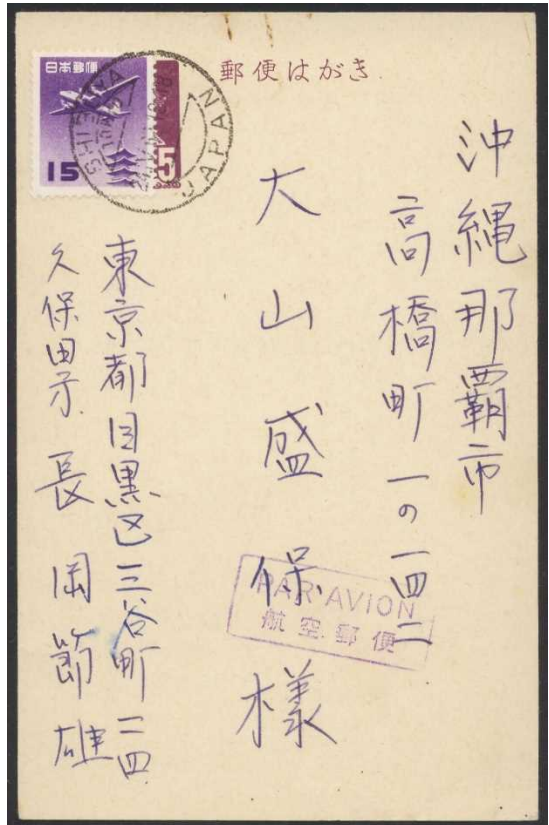
円位塔航空加貼の沖縄あて航空便葉書

永吉 秀夫

塔航空はもともと国内航空便として発行された切手ですが、肝心のその制度が1年半ほどで廃止されたため、「適正使用例」は極めて希少です。特にゼロなしの円単位切手は、ほとんどが制度廃止後の発行のため、国内航空便への使用機会は事実上ありません。しかしやはり、航空図案の切手には航空便への使用が似合います。ここでは、沖縄あての航空便葉書を紹介しましょう。



25 円料金時期(1951. 12. 1~1961. 9. 30)
5 円葉書に 20 円加貼
熱海 S28(1953). 6. 8



20 円料金時期(1961. 10. 1. ~72. 5. 14 本土復帰)
5 円葉書に 15 円加貼
SHIBUYA 1962. 4. 24

戦後の沖縄あての郵便料金は、船便については(形式的に外国郵便であったものの)国内便と同額の料金が適用されていましたが、航空便については1951年12月1日に朝鮮あてとともに国際航空郵便の「特別地帯」に指定され、一般の第1地帯あてより低額の特別料金が適用されるようになりました。そのときの料金は、封書・葉書同額の25円でした。

封書と葉書が同額というのは他地帯あても同様でしたが、1953年7月の料金改訂で一般外国あての葉書料金が大幅値下げされたのちも封書・葉書同額の25円が続いた後、1961年10月の料金改定で葉書が20円となって、1972年の本土復帰まで続きます。

上の左側は25円時代、右側は20円時代の沖縄あて航空便葉書で、国内用5円葉書への差額貼付の形で円単位塔航空の20円、15円が使われています。どちらも入手には努力が必要です。同様に塔航空25円1枚貼りの私製葉書もよい品ですが、20円の時代に塔航空20円は使われていません。